

シリーズ累計130万部突破!

『このミステリーがすごい!』大賞受賞・中山七里さん

〈ピアニスト×探偵〉“さよならドビュッシー”シリーズの最新刊

『もういちどベートーヴェン』3/20発売

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)は、『このミステリーがすごい!』大賞作家・中山七里氏の最新作『もういちどベートーヴェン』を2019年3月20日(水)に発売します。

中山七里氏は、『さよならドビュッシー』で、宝島社が主催するミステリー&エンターテインメントの新人賞『このミステリーがすごい!』大賞を受賞し、2010年に作家としてデビューしました。現在8本の連載を持ち今後開始予定の連載が2本ある人気の作家です。

ピアニスト×探偵の岬洋介が謎を解くミステリー“さよならドビュッシー”シリーズは、これまで『さよならドビュッシー』『どこかでベートーヴェン』など5作品を刊行。本作でシリーズ6作品目となり、累計130万部を突破する人気シリーズです。

音楽をモチーフにした当シリーズは、ミステリー作品としての評価はもちろん、その音楽描写が仲道郁代さんなどのピアニストや音楽関係者にも高い評価を受けています。

本書は、シリーズ1作目『さよならドビュッシー』より前の時代設定になっており、舞台は司法研修所。岬洋介の司法修習生時代が描かれています。また、一度ピアニストの道を諦め司法の道に進んだ岬が、なぜ再度ピアノの世界へ戻ってきたのかも描かれています。

中山七里氏の取材も可能ですので、お気軽にお問い合わせいただけますと幸いです。

【あらすじ】

2006年。ピアニストになる夢を諦めて法曹界入りした天生高春は、ピアノ経験者のようだがなぜクラシック音楽を避ける岬洋介とともに、検察庁の実務研修を受けていた。修習の一環として立ち会った取り調べの場に現れたのは、絵本作家の夫を刺殺したとして送検されてきた絵本画家の牧部日美子。日美子は犯行を否認しているが、凶器に付着した指紋という不動の証拠が存在する。取り調べが打ち切れようとしたそのとき、岬が突如ある疑問を投げかける……。

◇趣味はSF小説を書くこと

「書籍化する気は一ミリもないのですが、SF小説を書いています。連載小説を執筆する合間にちょこちょこ書き足して、時々読み返して悦に入っています」

◇ネタのストックはたくさんあります!

「ネタ自体はバーゲンセールしてもいいくらいストックがあります。オファーに従って加工するだけなので楽なんです。問題はトリック。わたしの場合は三日三晩考え抜いてやっと一つ思いつくくらいです」

中山七里(なかやま・しちり)プロフィール

1961年、岐阜県生まれ。第8回『このミステリーがすごい!』大賞・大賞受賞作『さよならドビュッシー』にて2010年デビュー。2011年発売の『連続殺人鬼カエル男』も同時に最終選考に残った。岬洋介シリーズをはじめ、御子柴礼司シリーズ(講談社)、刑事犬養隼人シリーズ(KADOKAWA)など著書多数。



司法修習生・岬洋介は、無罪を証明できるのか? 累計120万部突破!
『さよならドビュッシー』シリーズ最新刊
『大人達しの味』中山七里が書く、
『岬洋介の日常』(全3巻)好評発売中
三書堂書店 新装見返し
『岬洋介』(全3巻)好評発売中

『もういちどベートーヴェン』
定価: 本体1600円+税
発売: 2019年3月20日



岬洋介シリーズ

『さよならドビュッシー』は、

- 2013年に橋本愛さん、ピアニストの清塚信也さん主演で映画化!
- 2016年に東出昌大さん主演で『金曜ロードSHOW!』にてドラマ化!



『さよならドビュッシー』



『おやすみラフマニフ』



『さよならドビュッシー 前奏曲(プレリュード)』



『いつまでもショパン』



『どこかでベートーヴェン』

【『このミステリーがすごい!』大賞とは?】

『このミステリーがすごい!』大賞は、ミステリー&エンターテインメント作家の発掘・育成を目指す新人賞です。大賞賞金は文学賞最高額である1200万円。また、大賞作品はすべてベストセラーとなっており、これまでに、直木賞受賞作家の東山彰良氏や、累計1000万部突破の「チーム・バチスタ」シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出してきました。また『さよならドビュッシー』(2013年映画化・2016年日本テレビドラマ化)、『一千兆円の身代金』(2015年フジテレビドラマ化)、『果てしなき渇き』(2014年映画化)など、受賞作品は多数映像化されています。